

# 仁和寺所蔵の仁和寺札

## 版木及び関連資料について ①

吉備古泉協会（津山支部）

眞銀吹 池上 宥昭

協力

淳豊堂 吉田 昭二

### はじめに

社寺において近世末期、いわゆる幕末に発行された紙幣である寺社札は、藩札や旗本札と同様に特定の地域でのみ通用された。これらのうち、旧山城国内の二一社寺で発行されたものについては、吉田昭二氏の著された『城州古札見聞録』に詳しい。

なお、二一社寺とは同書より羅列すると、青蓮院（天台宗）・岩倉山 実相院（天台宗寺門派系単立）・紫雲山 大雲寺（天台證門宗）・大内山 仁和寺（真言宗御室派）・華頂山 知恩教院 大谷寺（知恩院・浄土宗）・牛皮山 隨心院（真言宗善通寺派）・曼殊院（天台宗）・嵯峨山 旧嵯峨御所 大覚寺門跡（大覚寺・真言宗大覚寺派）・安井金比羅宮（旧蓮華光院・神道）・大悲山 圓通寺（臨濟宗妙心寺派）・圓通山 戒光寺（真言宗泉涌寺派）・月輪山 泉涌寺（東山・真言宗泉涌寺派）・亀甲山 勸修寺（真言宗山階派）・龍華山 南殿 順興寺（浄土真宗本願寺派）・新坊 光蘭院（浄土真宗佛光寺派）・西山 宝鏡寺（臨濟宗単立）・南叡山 妙法院（天台宗）・円成山 靈鑑寺（臨濟

宗南禅寺派）・龍谷山 本願寺（西本願寺・浄土真宗本願寺派）・真宗本廟（東本願寺・浄土真宗大谷派）・東山 建仁禅寺（建仁寺・臨濟宗建仁寺派）である。

しかし、寺社札を発行した社寺に、発行の記録が残っていないことが多く、ほとんどの社寺がその存在を認識していない。筆者は、旧山城国内で寺社札を発行した真言宗系寺院である仁和寺・泉涌寺・大覚寺・勸修寺・隨心院・戒光寺の六ヶ寺の関係諸大徳・各位の協力を得て、寺社札の発行について記録もしくは伝承により認知されているか聞き取りを行った。その結果、寺社札の存在自体を初めて知ったという寺院が多い中、戒光寺には寺伝のみ伝わり、仁和寺においては唯一版木を所蔵しているとの回答を得た。

本稿では、仁和寺所蔵の版木及び関連資料について、当該版木の画像・拓図を示した上でその考察を行う。なお、版木の採拓については、これまで全く前例がなく、乾拓で行うことを条件に、仁和寺に特別の許可をいただいた。版木の拓手は吉田昭二氏、その他撮影・計測については筆者が行った。なお、執筆に際するにあたり、

平成二八年（二〇一六）五月二八日及び令和三年（二〇二一）十一月二五日の両日、仁和寺で調査を行った。

### 一、仁和寺札の概要

仁和寺は、京都市右京区御室大内に所在する真言宗御室派の総本山であり、真言十八本山に列する、開基は宇多天皇、創建仁和四年（八八八）の名刹である。『旧高田領取調帳』によると、幕末において仁和寺は、山城国葛野郡の西院領・西京村・鳴滝村・福王子村・池上村・平岡村・等持院村・常盤村・谷村・窪村・中村・川端村及び山城国紀伊郡の竹田村に領地を有していた。しかし、他の社寺と同様に明治四年（一八七二）及び明治八年（一八七五）の上知令によって現在の境内を除きその全てを没収された。

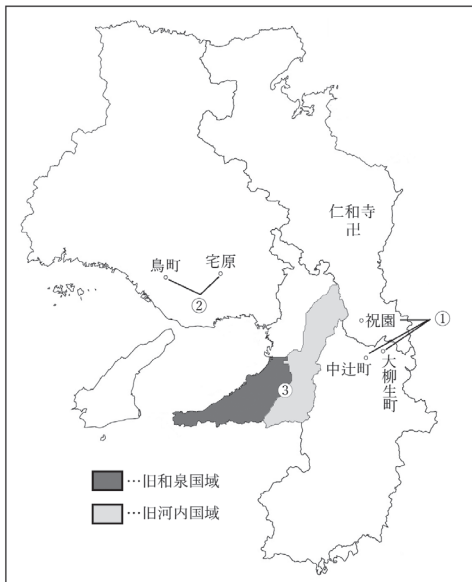
当然仁和寺札は、この幕末以前の仁和寺領で通用したものと思われがちだが、現存する仁和寺札を確認する限りでは、寺領ではなく全く別の地域で、しかも広範囲で通用したことがうかがえる。吉田氏によれば、通用範囲は主だって



【図①-1】現在の仁和寺境内航空写真<sup>3</sup>



【図①-2】仁和寺二王門（重要文化財）の近影



【図②】仁和寺札の通用範囲

三地域に分けることができるという。その三地域とは、①奈良・京都（現在の奈良県奈良市中辻町及び大柳生町・京都府相楽郡精華町祝園周辺）、②兵庫（現在の兵庫県神戸市北区長尾町宅原・三木市鳥町周辺）、③大阪（旧河内・和泉地域）とされる（【図②】参照）。

これらの三地域での発行年については、①は札に年号を示す語句が一切なく不明、②は文久三年（一八六三）銘のものがほとんどであり、③は慶応二年（一八六六）銘のものとなっている。いずれにせよ、各地域で通用したものは、幕末の発行であり、仁和寺としてはそれぞれの札の

請け人に対して、名義を貸したものとみて良いだろう。

なお、各地域の仁和寺札の種類等については、前出の吉田氏の著書が詳細であるので、そちらを参考にされたい。

## 二、仁和寺所蔵の仁和寺札版木関連資料

仁和寺所蔵の版木及び関連資料（次頁【写真①】参照）については、当該寺院に版木が残る唯一とも言える事例であり、他の藩札など古札を含

めた事例においても大変貴重な資料である。

寺社札は、他の古札と同様に、当該社寺が直接発行した訳ではなく、請人を介して発行されることがほとんどである。すなわち、仁和寺に所蔵される関連資料は、その発行に携わった請人が、役割を終えたこれらの版木を、おそらく明治初頭頃には仁和寺に返還したものと考えられるのである。

さて、仁和寺所蔵の版木及び関連資料を実際に見てみると、「仁和寺発行藩札版木」「大8小3角」「丸印3」と白墨で記された外箱に、大小二ヶの版木が保管されている。外箱の数と実際の版木の数合わないのは、元々は別の資料であったものが、なんらかの理由で一緒に保管されるようになったものと考えられる（実際に